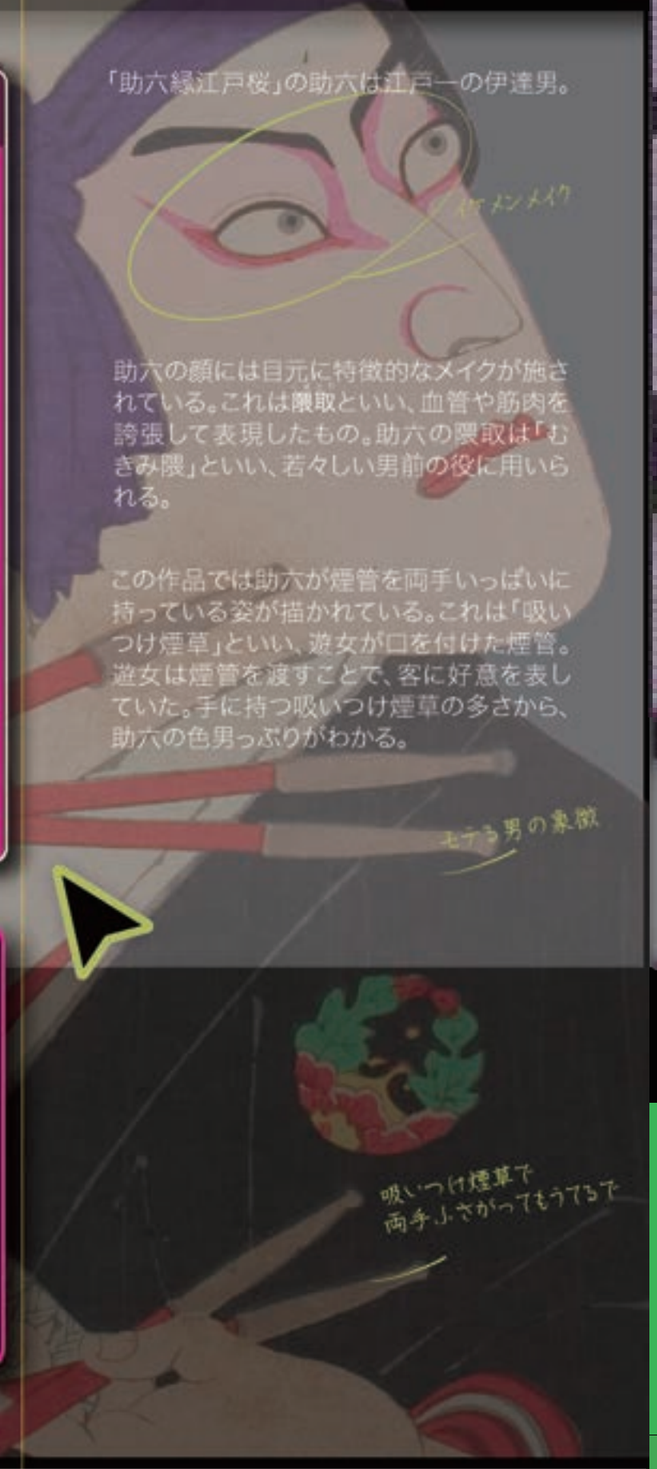
助六

粋

番/花川戸助六



文章制作
岩田雪音・鷹千明希・何聖思
リーフレットデザイン
豊嶋耀・小林莉子
二〇二六年　七月二十八日



本リーフレットは、京都芸術大学 芸術館所蔵作品をもとに、2026 年度前期インターンシップの一環として制作しました。本リーフレットに掲載した作品は、京都芸術大学芸術館 学園美術品データベースにてご覧いただけます。

京都芸術大学芸術館 URL：https://kyoto-geijutsu-kan.com

のぞいてみる？

江戸の色男

粋・艶・勇



表裏表紙：
豊原国周「歌舞伎十八番之内　勧進帳」（1899 年）
京都芸術大学 芸術館 所蔵

江戸一の色男！

市川団十郎演芸百



豊原国周

江戸時代から明治時代にかけて、役者絵は浮世絵を代表する画題の一つとして発展した。
豊原国周（1835～1900）は美人画や肉筆画なども手がけた明治浮世絵を代表する絵師である。特に迫力ある役者絵によって高い評価を受けた。人物の表情やしぐさを巧みに描き分け、力強さや気品、繊細な感情を生き生きと表現した。とりわけ、歌舞伎役者の個性や魅力を的確に捉えた作品は高く評価され、当時の歌舞伎文化を伝える貴重な資料といえる。
京都芸術大学　芸術館では浮世絵版画コレクションとして、豊原国周の浮世絵作品、特に役者絵を中心に923点収蔵している。

優げな貴公子・源義経

涼しげな色男・佐藤与茂七

歌舞伎役者 色男たちのプライベート!

勇艶

歌舞伎十八番之内　勧進帳

笠をかぶっているこの青年は源義経。高貴な身分だが、兄の頼朝から逃げるため、山伏の従者である強力に変装している。身をやつしているものの、衣の柄には源氏の家紋である笹竜胆が描かれており、義経の本当の身分が暗示されている。

変装中…

だが、隠しきれない美のオーラ!

また、気品あふれる佇まいや柔らかな顔立ちからも、隠しきれない高貴さが滲む。義経はその美しさを表現するため、女形が演じる場合もあった。他二人の勇ましい表情と比較しても、義経が端正な顔立ちの貴公子であることが見て取れる。

作者名 _ 豊原国周 _ 制作年 _1899 年 _ 所蔵 _ 芸術館



三十六花艸之内　水葵

作者名 _ 豊原国周 _ 制作年 1865 年 _ 所蔵 _ 芸術館



櫂

爽やかでやさしそう…
だけど、やるときはやる男です!

日本の三大怪談のうちの一つである「東海道四谷怪談」に登場する佐藤与茂七を演じているのは、歌舞伎役者・五代目 坂東彦三郎。

この絵の見どころは、主役である歌舞伎役者が真ん中に位置しており、背景には白と青の水葵の花が描かれていることである。この絵は、多色木版の技法を生かした青や紫の美しい色彩が用いられている。

夏から秋にかけて咲き、涼しげな印象の水葵は、明るい未来や希望の象徴として用いられる縁起の良い花とされている。与茂七は、作品の中に登場する「お岩」の父親の仇をとる役柄である。また与茂七は川辺に佇んでいるため、水辺に咲くこの花は人物そのもののように感じられる。

両国夕すずみ（三代目沢村田之助、四代目市村家橘、四代目中村芝翫）

作者名 _ 豊原国周 _ 制作年 _1866 年 -67 年 _ 所蔵 _ 芸術館



Enjoy

オフ時間も色男です〜

ここまで、「助六縁江戸桜」「勧進帳」「四谷怪談」という形で演者として活躍している色男たちを紹介してきた。この「両国夕すずみ」という作品では、色男たちのリラックスした様子に着目していただきたい。右から四代目中村芝翫、四代目市村家橘、三代目沢村田之助と並んでいる。皆それぞれ扇子やお酒、手拭いを手にして涼んでいる。役者の背後に描かれている橋は両国橋。両国では夏になると花火大会が開催され、多くの人で賑わった。赤い花火が打ち上がっている情景から、役者たちは花火見物を楽しんでいることがわかる。役者は普段芸の道に生き、稽古に励んでいる。そんな彼らが肩の力を抜いている姿は舞台上で見ることができない。役者の私生活を描いた作品は、歌舞伎好きにとって役者本人の人となりを窺い知れる貴重な機会だったのかもしれない。